

2015 年度 FD カンファレンス概要

※内容は変更になる可能性がありますので、ご承知おきください。

テーマ：「授業をデザインする」

授業を組み立てる際に内容や教材を吟味するのはもちろんですが、受講生数、学生のレベルやレディネス、学生が身を入れて学ぶためのしかけとテクニックなど、授業の質を左右する様々な側面を考慮しなければなりません。そのためには、学生はどのような人間でありどのように話せば伝わるか、授業、すなわちティーチング&ラーニングの目標をどこに定めるかについての知識とスキルが必要です。この二日間で、授業の様々な側面をブレイクダウンし、確実にアプローチしていきたいと思います。

全体プログラム

ALL-WS1：「研修の目的を設定する」（加藤善子）

二日間の研修を始めるにあたり、それぞれの目標を設定していきます。いくつかのワークをとおして互いを知り、信州大学の教員同士が興味関心を共有することも目的にしています。

ALL-L：「進化する授業づくりのススメ」（米谷淳（神戸大学））

「面白くてためになる」しかも「ムリ・ムラ・ムダ」をできるだけなくした授業をつくっていくための心得と、それに必要な「わざ」と「ちから」について考えます。授業設計学、教育評価、とくに学習ポートフォリオの解説をはさみながら個人作業、集団討議を交えた形式で行います。

ALL-WS2：まとめとアンケート（加藤善子）

二日間の研修で、各先生方にとってどのような成果があったかをふりかえります。評価を行った後、解散です。

FD 研修：(A)

A1-L / WS：「信大生の学習について」（李敏）

「今時の大学生は勉強しない」という嘆きを近頃よく耳にします。はたして信州大学の学生は勉強に励んでいるほうなのか、それとも勉強に怠けているほうでしょうか。本セッションにおいては、「学習時間に関するアンケート 2014 年」をはじめとする各種調査の結果に基づき、信大生の学習時間、学習場所、履修状況、読書習慣などの学習実態をみたうえで、学生が主体的に学ぶ方策について参加者と一緒に考えていきます。

A2-WS：『大学生基礎力ゼミナール』のアクティブ・ラーニング（加藤善子）

大学一年生の前期に開講している『大学生基礎力ゼミナール』は、様々な種類のアクティブ・ラーニングを組み合わせ、学生の学習・自己理解・コミュニケーション能力を高めています。先生方にそれらの一部を体験していただくことによって、学生のモチベーションをあげ、かつ学生を学習に向かわせ

るしくみを考えて行きます（B1-WS と内容は同じです）。

A3-WS : グループ de AL～90 分クッキング（米谷）

アクティブ・ラーニング型（AL 型）授業をつくってみましょう。AL 型授業といっても様々な手法や形態があります。分野や目的により、また、教員の強みや個性や意向を生かして、自分らしい授業となるよう、しかも学生にとっても「面白く、ためになる」授業となるようにするためのポイントを学びながら、参加者一人一人が各自の授業づくりを楽しむグループセッションです。小集団でワイワイガヤガヤしながら、各自がテーマ、授業目標と評価方法・合格基準の設定、教材・授業方法 の選定、15 回の授業計画、授業評価（形成的評価と総括評価）などを決め、シラバスを仕上げるところまでを能率よく進め、90 分で仕上げたいと思います（このセッションには予習があります。参加希望者には文献リストと該当箇所のコピーをお送りします）。

新任教員 FD 研修 : (B)

B1-WS : 『大学生基礎力ゼミナール』のアクティブ・ラーニング（加藤鉦三）

大学一年生の前期に開講している『大学生基礎力ゼミナール』は、様々な種類のアクティブ・ラーニングを組み合わせ、学生の学習・自己理解・コミュニケーション能力を高めています。先生方にそれらの一部を体験していただくことによって、学生のモチベーションをあげ、かつ学生を学習に向かわせるしくみを考えて行きます（A1-WS と内容は同じです）。

B2- WS : アサーション・トレーニング（加藤鉦三）

教員の多くは学生の気持ちを理解しようと努め、対等に接しようと努力していますが、一部の学生は、それに甘んじて必要な指示に従わなかったり、時になれ合いに陥ったりします。相手の立場を否定することなく、あるいは高圧的になることなく、必要なことをきちんと伝え、相手に行動を促すための話し方を練習します

B3- WS : ICT de 反転授業（矢部正之）

大学教育における人材育成に関し、社会からはその質の確保が求められています。単純に考えても、これらの要請に応えるためには、学生への関与の度合いを上げ、手をかけ指導することが必要になります。大学の現状を考えると、通常の方法でこれらに対応することは非常に困難なものがあります。その解決策のひとつとして、ICT（情報通信技術）の活用があります。ここでは ICT を使った反転授業のいくつかの事例を紹介し、皆さんの実践の中で、利用できるかどうか検討していただきます。

担当者 :

米谷淳 : 神戸大学大学教育推進機構大学教育研究推進室長

矢部正之 : 信州大学高等教育研究センター副センター長

加藤鉦三 : 信州大学高等教育研究センター

加藤善子 : 信州大学高等教育研究センター

李敏：信州大学高等教育研究センター

☆「カンファレンス」について：

「FD 研修」と「新任教員 FD 研修」を同時進行の「カンファレンス」形式（分科会形式）で開催します。参加者はメニューを選択できますので、様々な教職員と交流をしながら、それぞれのプログラムの中から各自の興味や必要に応じて参加することができます。対象は信州大学の全教職員および県内高等教育機関の教職員です。各学部 2～3 人の方と他大学の方々にご参加いただくことで、異分野ならびにアプローチ・手法の異なる教育に関する交流を通して新たな視点を得ることができることでしょう。

☆ 新任教員 FD 研修について：

4 月の新任教員研修のフォローアップ研修として実施します。対象は、信州大学に着任されたばかりの教員の方々だけではなく、着任 3 年以内の教職員の方々までと広がっています。本学で教育にあたられる上で有用な情報等を得られる機会であり、同じ学部・他学部の先生方と交流を深め、互いに学び合う良い機会でもありますので、2015 年 4 月の新任教職員研修対象者のみなさまは原則としてご参加ください。